

【曲の解説】

バリトン・サクソフォーン奏者の浅利真さん(ヴィーヴ!サクソフォーン・クワルテット)の提案もあり、私の吹奏楽曲の代表作でもある「太陽への讃歌 — 大地の鼓動」(2005年)のコーラルを基に2016年に作曲したのが「陽のあたる庭」です。木漏れ日のあたる温かな庭(憩いの空間)をイメージした耳馴染みやすい小品に仕上げましたのでリラックスしてお楽しみください。

原曲はバリトン・サクソフォーンのソロ曲ではありましたが今回の出版にあたってバスーン、クラリネット、バス・クラリネット、ユーフォニアムのソロでも演奏できるようにしました。

又、ピアノだけではなく吹奏楽伴奏でも演奏できる作品で、吹奏楽伴奏版はウインドアート出版から販売されています。今後は幅広い機会で演奏されることを願っています。

(八木澤 教司)

【演奏上のアドバイス】

音色とフレーズ感が何よりも大切な作品です。自分だけの表現方法を追求して、歌心のある温かい音楽創りをしてください。プレスの関係でフレーズの処理が短くならぬよう注意してください。この作品の基になっている吹奏楽曲「太陽への讃歌 — 大地の鼓動」をお聴き頂ければアプローチのヒントになることでしょう。ピアノ伴奏の前奏は特に響きを大切に演奏してください。

【八木澤教司プロフィール】

武蔵野音楽大学作曲学科卒業、同大学大学院音楽研究科修士課程修了。代表作は日本のみならずアメリカ、ヨーロッパ、アジア諸国、南米でも幅広く親しまれ、“パリ・ギャルド”の名で世界最高峰と呼ばれるギャルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団によって新作が初演された数少ない邦人作曲家の一人である。

合唱曲《あすという日が》は“希望の歌”“東日本大震災復興シンボル曲”と称され、2011年第62回NHK紅白歌合戦において夏川りみ、秋川雅史の両氏によって熱唱された。“困難を乗り越えれば必ず希望のある未来が待っている”といった作風はジャンルを超えて世界中の人々を勇気づけている。その他、公式Facebookページでの海外の吹奏楽情報やTwitterでの演奏に役立つ楽しいコラムなどは幅広い層の支持を得ている。

第21回日本管打・吹奏楽アカデミー賞 [作・編曲部門] (2011年)受賞、平成23年度JBA下谷奨励賞を受賞。尚美ミュージックカレッジ専門学校講師。

